

認知症患者に対する看護職のリハビリ志向性評価尺度

認知症患者に看護を実践する際の姿勢や心掛けていることに関して、

あなたの考えをお聞かせください。

第1因子：慣れ親しんだ活動や関係性を重視する

- 1 目の前に塗り絵を置いてみるなど、自発的な行動ができるきっかけづくりを行うようにしている
- 2 一緒に作業や活動ができる機会を設けるようにしている
- 3 なじみのものを家族に持ってきてもらうようにしている
- 4 認知症の人同士が交流できる機会を設け、なじみの関係ができることを期待している
- 5 支援者を覚えてもらえるように根気強くかかわるようにしている
- 6 長年の生活習慣やこだわりを尊重するようにしている

第2因子：偏見やネガティブな感情を持たないようにする

- 7 失敗を責めたり指摘したりしないようにしている
- 8 ケアの拒否がある場合には無理強いしないようにしている
- 9 認知症の人に偏見を持たないことを心掛けている
- 10 支援者側が認知症の人の限界を決めないようにしている
- 11 今日はできなくても明日はできるかもしれないと気長に考えるようにしている

第3因子：自分自身で人生を歩めると信じる

- 12 人生は認知症の人自身でコントロールできると信じている
- 13 認知症の人は自己決定できると信じている
- 14 認知症の人はこれからも成長できると信じている

第4因子：心に潜む感情や思いを尊重する

- 15 反応が乏しくても心の中では感情が生きていることを忘れないようにしている
- 16 反応が乏しくてもじっくり待って急かさないようにしている
- 17 表情や言動の変化から真意を読み取ることを心掛けている

第5因子：強みを活かす

- 18 料理など得意だったことができる機会を設けるようにしている
 - 19 食器洗いやお茶配りを頼むなど役割を担う機会を設けるようにしている
-

5：非常に当てはまる

4：まあまあ当てはまる

3：どちらともいえない

4：あまり当てはまらない

3：まったく当てはまらない